2020年度三田図書館・情報学会研究大会

日本の公共図書館における高齢者サービスの変遷及び課題

文献の検討から

慶應義塾大学大学院　張心言

2020年11月7日

背景

- **日本の公共図書館は1970年代から利用者として高齢者に注目し始め，これまでに様々な知見が蓄積されつつある。しかし，半世紀にわたる高齢者サービスの研究及び実践について，その変遷を体系的にまとめたものは少ない**
  - 堀[1)]　：ウェブ社会への対応、ポジティヴ・エイジング、ブーマー世代への対応という3つの角度から、図書館の高齢者サービスをめぐる動向を整理した
  - 呑海[2)]：日本の図書館サービスにおける高齢者の位置づけの変遷をまとめた
- **超高齢化社会における図書館サービスの再考が喫緊の課題として認識されるようになっており，高齢者サービスの将来について考えるためには，その発展の経緯を把握することが必要である**

1)堀薫夫.高齢者向けの図書館サービス .カレントアウェアネス .2010，vol.306，p.9-12.
2)国立国会図書館関西館図書館協力課.超高齢社会と図書館:生きがいづくりから認知症支援まで.図書館調査研究リポート，2017，172p.

目的

　文献調査に基づき，日本国内の公共図書館における高齢者サービスの研究及び実践の時期ごとの特徴や変遷を把握しながら，超高齢化社会における公共図書館の課題を明らかにする

調査方法

■ 対象文献の検索（2020年7月に実施）

ステップ	方法	文献数
①CiNii Articles	クエリを「(図書館 OR 読書 OR 学習) AND (高齢者 OR シニア OR 老人 OR ベビーブーム OR 団塊世代 OR 認知症)」として検索を行い，図書館に関係している文献を抽出	136
②『図書館情報学研究文献要覧』	全4冊の「図書館奉仕・図書館活動」欄を調査し，①と重複しない「図書館と高齢者」に関する文献を抽出	12
③BIBLIS PLUS	「高齢者」,「シニア」,「老人」,「ベビーブーム」,「団塊世代」,「認知症」のキーワードで検索し，①②と重複しない文献を抽出	20
④カレント アウェアネス	「高齢者」をキーワードとして検索を行い，①②③と重複しない文献を抽出	1
合計		**169**

＊網羅的に資料を収集するために，学術論文に該当しない文献も対象とした

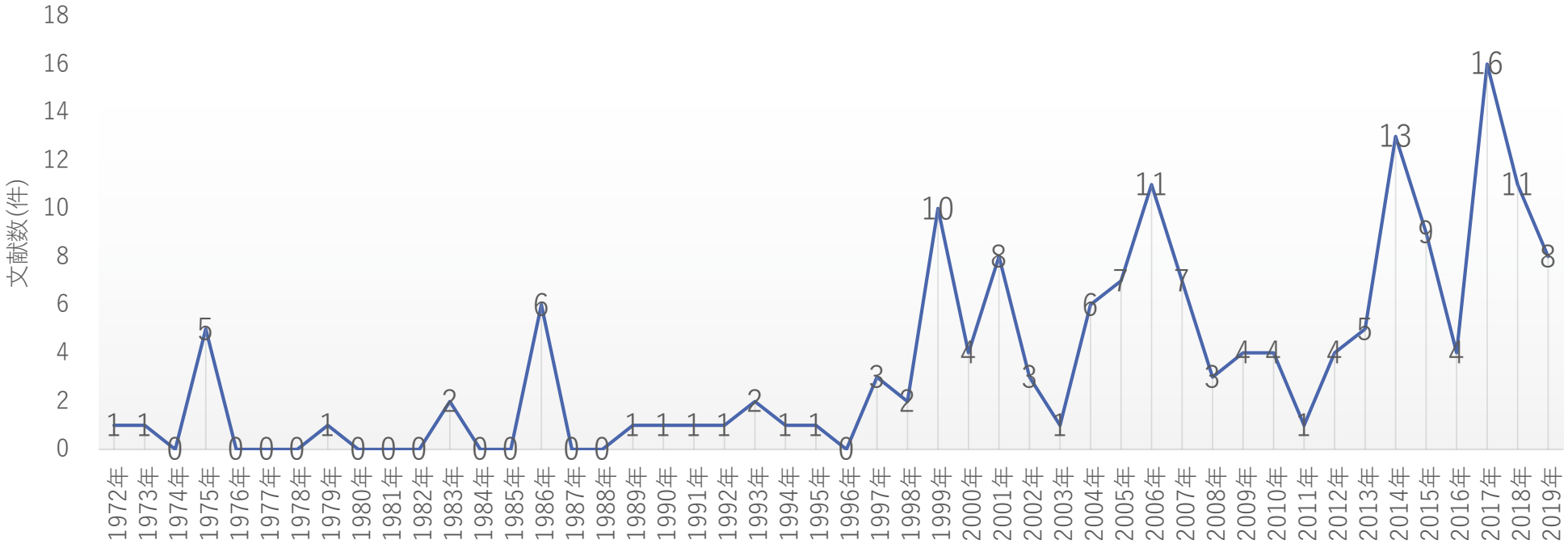
■ 分析方法

対象文献を読み，年次推移に沿って「文献の記述形態」,「分類別文献の内容」に整理し分析した

集計結果

文献の年次推移

年ごとに変動があるものの，長期的には増加傾向にある

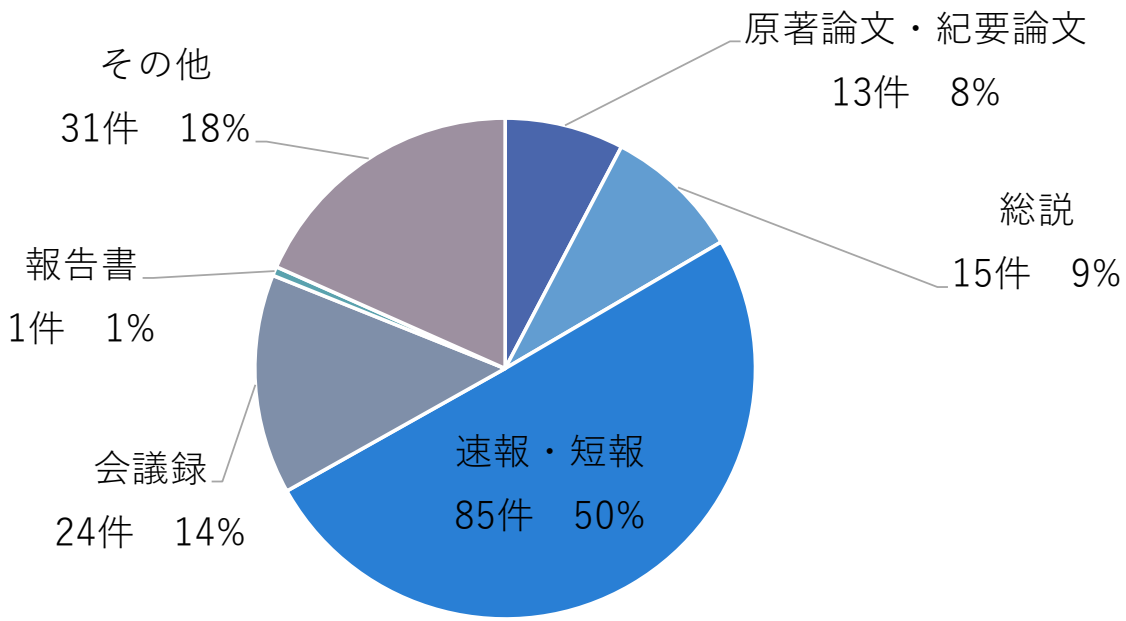


第1図　年次別文献数

集計結果

文献の記述形態

速報・短報は最も多い、原著論文は少ない



第2図　文献の記述形態

集計結果

分類別文献の内容

事例紹介は最も多い、実態調査は少ない

文献の内容		文献数(件)
日本の高齢者サービスに関する解説記事		18
日本の高齢者サービスに関する研究(実態調査を除く)		39
日本の高齢者サービスに関する実態調査	高齢者を対象に	10
	図書館を対象に	5
日本の事例紹介		48
海外の高齢者サービスに関する研究及び事例紹介		17

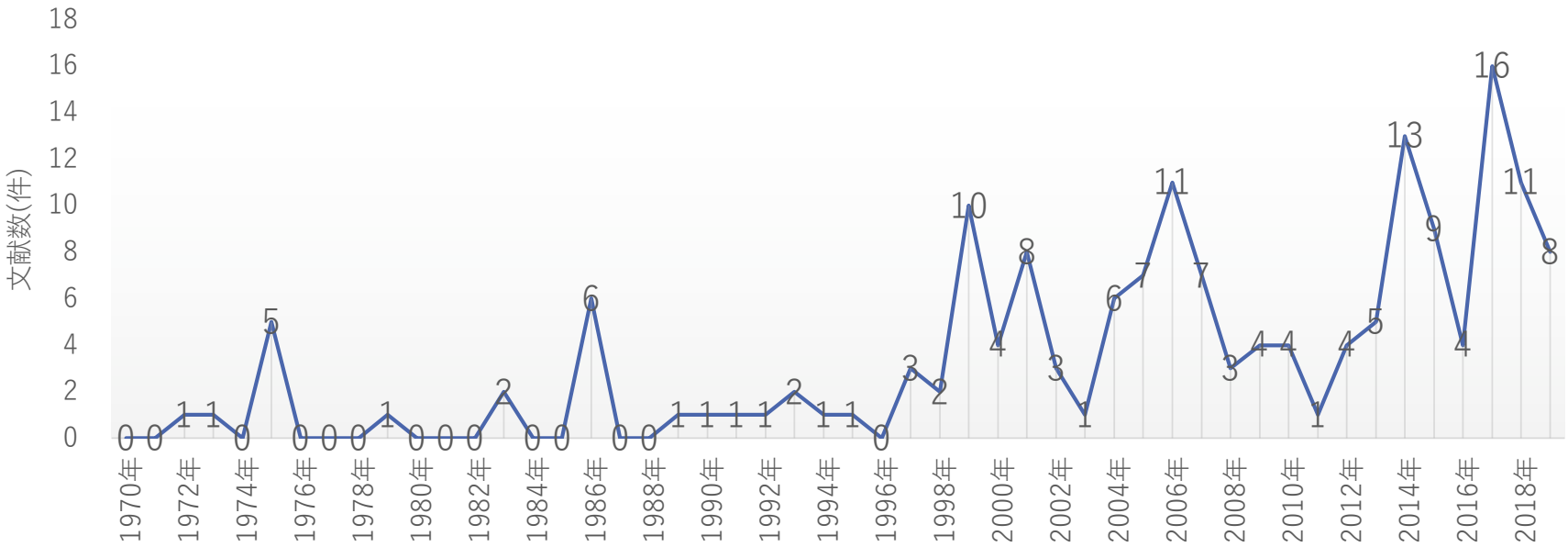
＊文献の記述形態「その他」と「報告書」の32件を対象外にした

第1表　分類別文献の内容

分析

- 日本の公共図書館における高齢者サービスに関する研究と実践を3期に分け，その内容を社会背景を踏まえて考察する

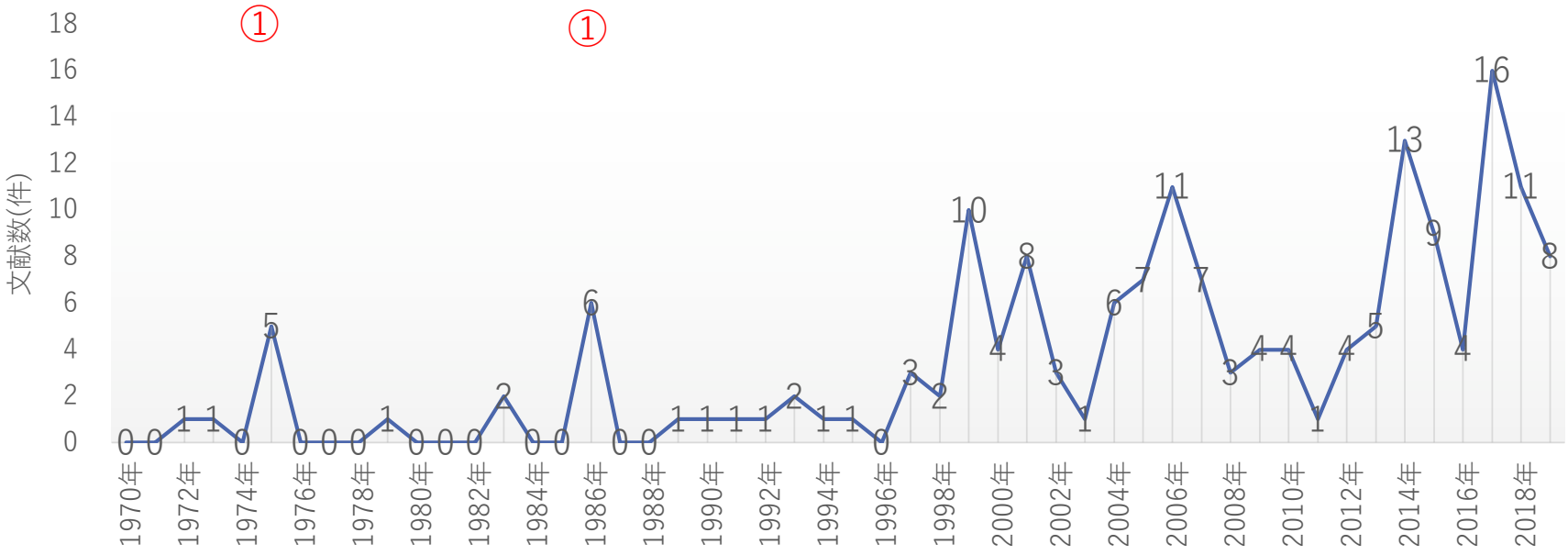
第Ⅰ期：萌芽	第Ⅱ期：模索と吸収	第Ⅲ期：多様化
1970年代―1980年代末	1990年代―2000年代半ば	2000年代半ば以後



第Ⅰ期：萌芽（1970年代―1980年代末）

文献数：16

第Ⅰ期：萌芽	第Ⅱ期：模索と吸収	第Ⅲ期：多様化
1970年代―1980年代末	1990年代―2000年代半ば	2000年代半ば以後



第Ⅰ期：萌芽（1970年代―1980年代末）

高齢者をめぐる日本の社会的背景

■ 高齢化の状況

- 1970年，総人口に占める 65 歳人口の割合が 7%を超え，高齢化社会に突入[1)]
- 1970年代，「寝たきり老人」問題の出現

■ 社会福祉分野の動き

- 1972年，「老人ホームのあり方」に関する中間意見[2)]

  → “（老人ホームを）「収容の場」から「生活の場」へと高めるべきである”
- 1970年，「視覚障害者読書権保障協議会」による読書権運動の展開[3)]

1)内閣府編.高齢社会白書.平成16年版，2004.
2)中央社会福祉審議会老人福祉専門分科会編.「老人ホームのあり方」に関する中間意見，1972.
3)金智鉉.どのように視覚障害者は読書環境を獲得してきたのか:点字図書館，公共図書館，読書権運動の関係を中心として.京都大学大学院教育学研究科紀要.2006，no.52，p.108-121.

第Ⅰ期：萌芽（1970年代―1980年代末）

文献に見られること

- **1972年，“図書館の「恍惚の人」たち”（『文芸春秋』）** [1)]
  - 横浜市立図書館の司書が自館に集まる高齢者の図書館利用像を描く記事
  - 「図書館は学生で満員」という印象を打ち破り，高齢利用者が注目され始める

⇒以後，高齢者サービスに関する文献が僅かながら見られるようになる

1)佃実夫.図書館の「恍惚の人」たち:新聞オヤジに地図老人,ここだけが生き甲斐の群像.文芸春秋.1972，vol.50，no.13，p.160-166.

第Ⅰ期：萌芽（1970年代―1980年代末）

文献に見られること

■ **事例紹介やサービスに対する個人的な提案が中心**

- 図書館職員が勤務する図書館の事例報告，サービスに対する提案[1)]
- 図書館職員が海外の図書館に研修に行った報告[2)]
- 高齢利用者による提案[3)]

⇒横断的な調査や分析はなされていない

1)例えば，次のような文献が見られる。
原田安啓.老人読書室をつくってみたけれど.みんなの図書館.1986，no.112，p.23-25.
佐藤章.お年寄りに紙芝居.みんなの図書館.1986，no.112，p.20-22.
2)例えば，次のような文献が見られる。
新谷迪子.ロンドン・ワンズワース区の図書館サービス：HouseboundServiceを中心として.みんなの図書館.1986，no.112，p.34-36.
後藤久夫.アメリカの公共図書館での高齢者サービス.みんなの図書館.1986，no.112，p.26-33,10.
3)林収.社会教育の立場から読書推進を：視力障害者としての提案と希望.図書館学.1975，no.26，p.5-6.

第Ⅰ期：萌芽（1970年代―1980年代末）

文献に見られること

■ **障害者に準ずる扱い方で高齢者をサービス対象とする**

- **高齢者の「身体の不自由」に重点を置く**

  →高齢者を来館困難者として扱う

  →高齢者に多く見られる視力障害を考慮する

- **既存の障害者サービスの見直しから高齢者事業を試み始める**

  →老人ホームなどの施設への貸出サービス[1)]や読み聞かせ活動[1) 2)]

  →点字資料の提供[3)]

1）佐藤章.お年寄りに紙芝居.みんなの図書館.1986，no.112，p.20-22.
2）品川恭子.老人ホームでの朗読サービス:お年寄り達との交流もまもなく2年朗読会は成幸ホームに根付いてきたようだ.みんなの図書館.1986，vol.112,p11-19.
3）辻畑君子.潜在的視覚障害者へのサービスが課題:山口県点訳友の会の活動.図書館学.1975,vol.26，p.7-8.

第Ⅰ期：萌芽（1970年代―1980年代末）

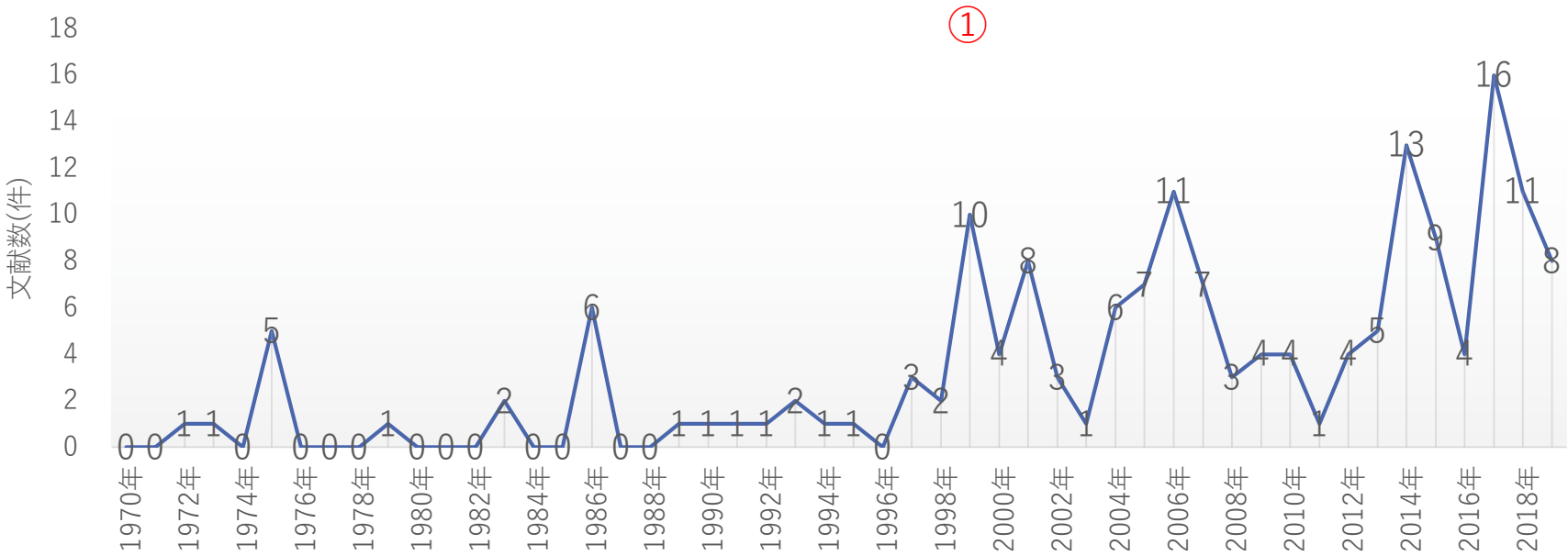
まとめ

- 「身体が弱っている」利用者としての高齢者を意識し始め，彼らを障害者サービスの延長線に置きながら対策を講じる
- 「高齢者」がどのような人々で，どのような課題があるのかが組織的に把握されていない

第Ⅱ期：模索と吸収（ 1990年代―2000年代半ば ）

文献数：45

第Ⅰ期：萌芽	第Ⅱ期：模索と吸収	第Ⅲ期：多様化
1970年代―1980年代末	1990年代―2000年代半ば	2000年代半ば以後



第Ⅱ期：模索と吸収（ 1990年代―2000年代半ば ）

高齢者をめぐる日本の社会的背景

■ 高齢化の状況

- 1990年以後，高齢化の進行速度が急速に高まる
- 1994年，65歳以上人口の割合が 14%を超え，高齢社会を迎えた

■ 高齢者政策の動き

- 1991年「高齢者のための国連原則」

  → “高齢者の自立，参加，ケア，自己実現及び尊厳を実現する” [1)]

- 1995年「高齢社会対策基本法」

  → “高齢社会対策の基本理念を明らかにした” [2)]

- 1999年 “国際高齢者年”

1)国際連合編.高齢化に関する国際行動計画および高齢者のための国連原則,1998.
2)内閣府編.高齢社会対策基本法. 1995 .

第Ⅱ期：模索と吸収（ 1990年代―2000年代半ば ）

文献に見られること

■ 国内に関する調査が実施される

- 「高齢利用者を対象とする」調査（2件）

調査対象	調査方法
尼崎市の公共図書館[1)]	図書館が示す利用者統計から高齢者のデータを抽出
所沢市の公共図書館[2)]	高齢者へのアンケート調査

- 「図書館を対象とする」調査（2件）

調査対象	調査方法
全国地方公共団体の図書館[3)]	図書館へのアンケート調査
愛知県の公共図書館[4)]	図書館へのアンケート調査

1)大橋一二.高齢者と図書館.図書館界.1989,vol.40, no.5, p.228-235.
2)林貴光,五十嵐弥生,宮城干城.所沢市における図書館の高齢者利用に関するケーススタディー.工学院大学研究報告.2004,vol.96, p.161-168.
3)風間智子.日本の公共図書館における高齢者サービスの現状と展望:設置母体と高齢化率による比較.Library and information science.1997,37, p.55-70.
4)谷本道子,鈴木香織.愛知県における高齢者の公共図書館利用に関する研究.名古屋女子大学紀要.1998,vol.44 , p.23-31.

第Ⅱ期：模索と吸収（ 1990年代―2000年代半ば ）

文献に見られること

■ **海外や他の分野の知見を吸収する**

- **海外の高齢者サービス**

  →高島：米国に注目，ブルックリン公立図書館の事例[1)]やIRサービス[2)]などを主に取り上げた

  →白根：英国に注目，「追憶活動（回想法）」[3)4)]を主に取り上げた

- **老年学やエイジングの知見**

  →高島：高齢者の「記憶の老化・身体の老化・精神の老化」を統合して考慮する[5)]

  →矢野：エイジングの視点に基づき、高齢者への学習援助の動向を紹介する[6)]

1)高島涼子.アメリカ合衆国における高齢者と図書館.北陸学院短期大学紀要.1990,vol.22,p.113-131.
2)高島涼子.高齢化社会における図書館の役割.現代の図書館.1992, vol.30, no.1, p.59-70.
3)白根一夫.イギリスでみた公共図書館による高齢者サービス.みんなの図書館.1997,vol.248, p.62-76.
4)白根一夫.イギリス公共図書館による「高齢者サービス」:「司書の海外研修」の報告から.図書館雑誌.1999,vol.93, no.7,p.528-529.
5)高島涼子.高齢者への図書館サービス.図書館界.1993,vol.45, no.1, p.73-78.
6)矢野泉.長寿学園における高齢者への学習援助サービスの動向：エイジングの視点を手手がかりに.社会教育学・図書館学研究.1994,vol.18, p.33-42.

第Ⅱ期：模索と吸収（ 1990年代―2000年代半ば ）

文献に見られること

■ 図書館におけるサービスの状況

- **「身体的不自由」に着眼するサービスをメイン事業とする**

  →館外サービス[1)]（施設への貸出，朗読会，送迎サービス，宅配サービスなど）

  →大活字本など資料の提供[2)]

- **高齢者の「精神的健康」に着目する動向が見られる**

  → 「回想法」の試み[3)]

1) 1999年の特集『いま求められている「高齢者サービス」とは』に，以下のような事例が多く紹介されている。
山口和江.老人ホームへの朗読サービスについて.図書館雑誌.1999,vol.93，no.7，p.532.
宮原みゆき.浦安市立図書館の宅配サービスについて.図書館雑誌.1999,vol.93，no.7，p.534.
伊藤剛雄.胆沢町立図書館における高齢者への図書提供サービスの実践事例 .図書館雑誌.1999,vol.93，no.7，p.530-531.
2)山内薫.墨田区の高齢者サービス.図書館雑誌.1999,vol.93，no.7，p.524-527.
3)白根一夫.斐川町立図書館の高齢者サービス：回想法による試み.現代の図書館.2006,vol.44，no.3，p.150-157.

第Ⅱ期：模索と吸収（ 1990年代―2000年代半ば ）

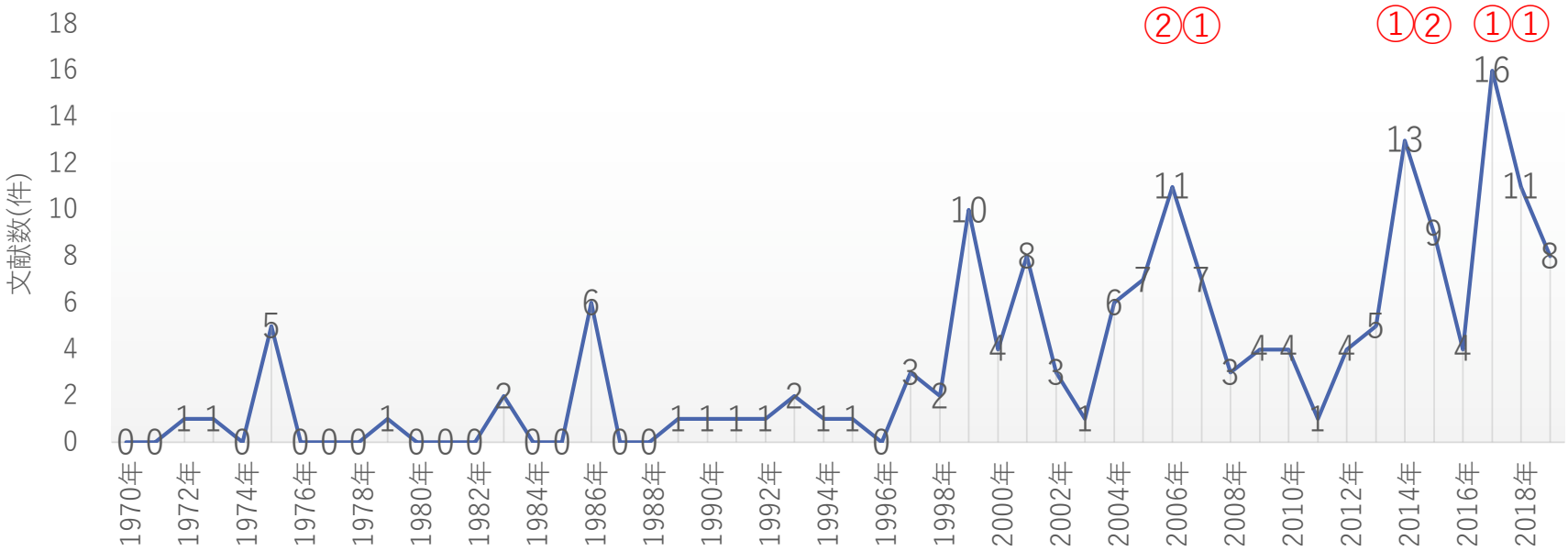
まとめ

- 海外や他の分野の知見を吸収し，日本における実態調査も試行され始めた
- 主として障害者サービスに付随する形で始められた高齢者サービスについて，徐々に新たなサービスに向けた模索が始まった

第Ⅲ期：多様化（ 2000年代半ば以後 ）

文献数：108

第Ⅰ期：萌芽	第Ⅱ期：模索と吸収	第Ⅲ期：多様化
1970年代―1980年代末	1990年代―2000年代半ば	2000年代半ば以後



第Ⅲ期：多様化（ 2000年代半ば以後 ）

高齢者をめぐる日本の社会的背景

■ 高齢化の状況

- 2006，7年に，高齢化率が21％を超え，超高齢化社会に突入[1)]
- 2007年，団塊の世代の一斎退職による「2007年問題」の現れ

■ 高齢者政策の動き

- 2012年「長寿社会における生涯学習の在り方について」報告書

  → “新たな学習の機会を通じて，高齢者が社会参画・地域貢献の役割を担っていく”[2)]

- 2013年「認知症施策推進5か年計画」[3)]， 2015年「認知症施策推進総合戦略」[4)]

1)内閣府編.高齢社会白書.平成19年版，2007.
2)文部科学省編.超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会.長寿社会における生涯学習の在り方について:人生100年いくつになっても学ぶ幸せ「幸齢社会」.2012.
3)厚生労働省編.認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン),2012.
4)厚生労働省編.認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン),2015.

第Ⅲ期：多様化（ 2000年代半ば以後 ）

文献に見られること

■ 「高齢者」の捉え方の多様化

- **高齢者像の捉え直し**

  →「福祉・保護」と「生活者・活動者」[1)]

  →「ヤング・シニア」と「オルド・シニア」[2)]

  →「アクティブ・シニア」と「非アクティブ・シニア」[3)]

  → 「サード・エイジ」と「フォース・エイジ」[4)]

- **海外の「図書館と高齢者観」をめぐる課題への注目**

  → 英米のサービスガイドラインから見る高齢者観[5)]

  → 米国の高齢者観の変容と図書館の関係[6)]

1)堀薫夫.高齢者の図書館利用と読書活動をめぐる問題.現代の図書館.2006, vol.44, no.3, p.133-139.
2)近江哲史.シニアはきょうも図書館に出かける.図書館の学校.2006, vol.68, p.8-12.
3)溝上智恵子ほか編.高齢社会につなぐ図書館の役割:高齢者の知的欲求と余暇を受け入れる試み.学文社.2012,168p.
4)呑海沙織.高齢社会における図書館サービス:サード・エイジと図書館.図書館雑誌.2014,vol.108, no.5,p.313-315.
5)入江有希.英米の高齢者サービスガイドラインに見る高齢者観.現代の図書館.2006, vol.44, no.3, p.127-132.
6)高島涼子.高齢者観の変容と図書館:1961年・1971年高齢化に関するホワイトハウス会議を契機として.京都大学生涯教育学・図書館情報学研究.2005, vol.4, p.107-129.

第Ⅲ期：多様化（ 2000年代半ば以後 ）

文献から見られること

■ 「元気な」高齢者への注目

- **高齢者の生涯学習や社会参加**[1) 2)]
- **図書館における取り組み事業**

→つづき図書館「ファン倶楽部事業」[3)]，吹田市立千里図書館「自分史講座」など[4)]

1)鈴木尚子.神奈川県立図書館における社会参画を目指した高齢者向けサービスの可能性.神奈川県立図書館紀要.2014，vol.11，p.3-24.
2)新井恭子.シニアと公共図書館の有効利用：ビジネス支援が引き出す個人と地域の創造性.情報化社会・メディア研究.2008，vol.5，p.51-60.
3)若杉隆志.高齢者が活躍する場としての図書館:つづき図書館ファン倶楽部の活動から.図書館雑誌.2018,vol.112，no.8，p.516-517.
4)金森直美,梅田米大.図書館で「自分史講座」シニア世代の生きがいづくりを応援します!:吹田市立千里図書館からの報告.図書館雑誌.2014,108(5),p.316-317.

第Ⅲ期：多様化（ 2000年代半ば以後 ）

文献から見られること

■ **認知症への着目**

- **海外の図書館における認知症支援サービスの紹介**

  →英国「本の処方箋プロジェクト」[1)]，米国「民話と旅行プログラム」[2)]

- **日本での「認知症にやさしい図書館」への実現**[3)]

- **図書館における認知症への取り組み事業**

  → 川崎市立宮前図書館「認知症の人にやさしい図書館プロジェクト」[4)]，熊取町図書館「ひまわりカフェ」[5)] など

1)呑海沙織,溝上智恵子.イギリスの公共図書館における認知症支援サービス.日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集.京都，2015-05-30，日本図書館情報学会，2015，p.8-11.
2)鈴木尚子.米国の図書館による認知症高齢者への教育事業の特徴と課題：イリノイ州の公共図書館地区によるアウトリーチプログラムの考察と我が国への示唆.徳島大学大学開放実践センター紀要.2019，vol.28，no.3，p.1-23.
3)例えば，以下のような研究がある。
呑海沙織.多様性を許容する図書館:認知症にやさしい図書館について考える.現代思想.2018，vol.46，no.18，p.128-137.
呑海沙織.認知症にやさしい図書館をめざして:「超高齢社会と図書館研究会」の取り組み.月刊社会教育.2019，vol.63，no.2，p.35-41.
4)舟田彰.地域包括ケアシステムと図書館:「認知症の人にやさしいサービス」の現状とこれから.図書館界.2017，vol.69，no.1，p.11-18.
5)室谷牧子.市民を活かす図書館，高齢化社会への期待:熊取町のひまわりカフェ(認知症カフェ)の取り組みを通して.みんなの図書館.2017,vol.484，p.2-11.

第Ⅲ期：多様化（ 2000年代半ば以後 ）

まとめ

- 「高齢者」への捉え方が多様化になり，図書館の高齢者サービスを障害者サービスから脱却させる動きが本格化した
- 高齢者の異なるニーズに合わせて，多様な試みに着手した

まとめ

第一期 萌芽

1970年代—1980年代末

高齢者をめぐる社会的背景

・高齢化社会（7%）
・「寝たきり老人」問題
・老人ホームの改革
・視覚障害者の読書権運動

文献に見られること

・事例紹介やサービスに対する個人的な提案が中心
・障害者に準ずる扱い方で高齢者をサービス対象とする

第二期 模索と吸収

1990年代—2000年代半ば

高齢者をめぐる社会的背景

・高齢社会(14%)
・「国連原則」
・「高齢社会対策基本法」
・国際高齢者年

文献に見られること

・国内に関する調査の実施
・海外、他分野の知見の吸収
・身体的不自由に着眼するサービスをメインとする一方，精神的健康にも着目し始める

第三期 多様化

2000年代半ば以後

高齢者をめぐる社会的背景

・超高齢社会(21%)
・「2007年問題」
・「生涯学習」に関する報告書
・認知症施策推進5か年計画
・認知症施策推進総合戦略

文献に見られること

・高齢者の捉え方の多様化
・元気な高齢者への注目
・認知症への着目

考察と課題

- 高齢者サービスは，第Ⅰ期の障害者サービスの付随する形で始まり，第Ⅱ期では障害者の枠組みで扱うことの妥当性が問われ，徐々に新たなサービスに向けた模索が始まる。第Ⅲ期では，障害者サービスから脱却させる動きが本格化し，「高齢者」の多様性への認識が深まり，異なるニーズに合わせる試みが始まる
- ただ，多様化の試みはまだ発展途上であり，今後は高齢者の多様化のニーズをさらに把握する必要がある
- 例えば，対象を「図書館の高齢利用者」だけではなく，利用しない高齢者にも広げて実態を把握し，サービスのさらなる可能性を考える

謝辞

本研究は，潮田記念基金，慶應義塾博士課程学生支援プログラムによる助成を受けています。

また，発表に当たり，多大なご指導・ご支援をいただきました，池谷研究室の皆様に深く感謝申し上げます。

2020年度三田図書館・情報学会研究大会

日本の公共図書館における高齢者サービスの変遷及び課題

文献の検討から

慶應義塾大学大学院　張心言

2020年11月7日